

かわさきコロナ情報(動画特設ページ)

#32 令和2年9月10日～新型コロナに向き合う 保育現場のいま～

川崎市長の福田紀彦です。9月10日(木)かわさきコロナ情報。

今日は、感染の状況ではなく「保育現場のいま」をお伝えしていきたいと思います。

4月7日に政府から緊急事態宣言が出て、5か月が経過しました。この間、保育の現場では4月10日から保育園への登園の自粛をお願いさせていただいて、5月25日に政府の緊急事態宣言自体は解除されましたが、川崎市としては、6月30日まで引き続き登園自粛をお願いさせていただいておりました。

この間にあっても、保育園のそれぞれの施設の方たちが必死になって、感染防止対策をしながら、保育に努めてまいりました。6月からは、こういった「新しい生活様式に配慮した保育事例集」というものを使って、こういった工夫をして、感染防止対策をしていこう。例えば、園児の送迎ですとか、食事の時、あるいは、水遊びをどうしたら工夫しながらできるのか。かなり事細かく、感染防止をこうしたらできる。ということをかかなり工夫重ねてきました。いろいろな好事例が出てきていますので、そういったものを随時、更新しながら、市内すべての保育従事者のみなさんに共有をして取り組みを図ってきました。

こうした事例集をもとに大切な保育事業を継続しながら、感染対策を同時にする非常に難しい取り組みでしたけれども、その今の現場を見ていただきたいと思います。

それではどうぞ御覧ください。

(動画スタート)2:12～

[平間保育園長]

保育園の現場は「保育」の性質上、3密の回避や十分なソーシャルディスタンスを保つての生活は大変難しく、どのように保育を進めていけばよいのか、また職員自身がウイルスに感染したら？ウイルスを持ち込んでしまったら？子ども達や保護者の方がかかってしまったらどうしよう。という不安がぬぐいきれません。

そういう不安の中で、今、仕事をしています。子ども達の笑顔を守りたいと日々奮闘している職員の姿を見ると、なんとか全力で守らなければ…という思いで毎日「保育」という仕事に向き合っています。

[保育園看護師]

現在では、園児の健康管理はもとより、その家族や同居者の健康状態まで含めて配慮し、対応していく必要があります。手指消毒やマスクの着用をお願いしており、保育室には入らずに、一人一人健康チェック表を見ながら子どもの受け入れをしています。

受診後に登園した場合には、担任と一緒に保護者から丁寧に聞き取りをして、個別に対応しています。職員についても同様で、それぞれとの信頼関係のもと、把握に努めています。

「ウイルスを持ち込まない」という考えを基本に、職員は、園舎内に入る前に手指消毒やマスクの着用をして、健康チェックを行っており、体調が悪い時など、少しでも悩んだら休むようにして感染拡大防止につとめています。

遊具はローテーションして使い、水洗いや、消毒液で拭いています。園舎内の掃除は、共有の廊下とドアの手すりや登降園簿脇の鉛筆、パソコン周りや電話機など午前と午後の2回、時間を決めて、定期的に消毒をしています。上履きの裏は消毒液で拭くようにしています。

消毒は徹底して行っていますが、感染防止の基本は手洗いであり、食事の前後はもちろんのこと、何かをやる前には、しっかりとその方法を伝えて行っています。

お昼寝の時は、出来る限り間隔を空けて、子ども同士の口元の距離をとるようにしています。

呼吸の確認は、胸に軽く手を当て上下の動きを目で見確認しています

子どものマスクは熱中症の問題もあり、症状がある時を除いては着用していません。

登園している子どもの体調不良時には、集団保育は避けて、保育室にコーナーを作り、担任が使い捨てのガウンや手袋とゴーグルをつけて個別に保育し、配慮しています。

新しい生活様式を、どのようにしてどこまで保育園で取り入れていくのか？

保育士から、消毒はどのようにしたらよいの？食育や水遊びはやっても良いの？ちょっとでも咳が出たら休んでもらうの？といった質問がたくさんあり随分悩みました。

子どもの命を守ることを最優先に考え、感染防止に向けて、厳しい事も、職員に伝えていかなければいけない立場であると感じ、仕事に向き合っています。

[保育士]

保育園の生活は、人と関わり合いながら子どもたちは育ちあっています。今まで当たり前のように子どもたちと触れ合ったり、気にせずおしゃべりをしたり、笑いあっていたりした生活を見直さなければいけないのかなと悩むことが多いです

幼児クラスでは、健康集会をクラスごとに行いました。子どもたちと一緒に手洗い咳やエチケットの大切さ、友だちと距離をとることについて話をしました。子どもたちは話をよく聞いて、新たな生活様式を受け入れようとして、生活に慣れようとしています。

室内で遊ぶ時には廊下やテラスも遊びの場として活用しながら、少人数で分かれて遊んだり、テーブルでは横に並んで遊んだりしています。向かい合う時は透明の衝立をして飛沫がかからないようにしています。

園庭は、クラス毎に時間を決めて遊んでいます。体操をする時にはフープやマットで立ち位置を目印にして、自然と子どもたちが距離をあけられるようにしました。子どもたちが大好きなシャボン玉遊びは、口で吹かない道具を手作りし、シャボン液は間隔をあけていくつも用意して遊びました。

先日は、子どもたちと一緒にやりたいと考えたウォータースライダーをして遊びました。

その時も、一人ずつ滑ったり間隔をあけて並んだり気をつけました。滑り止めに敷いているマットに印をつけて、子どもたちが自分で間隔をあけることができます。今年は、プール遊びができなかった分とても喜んでくれて私も嬉しかったです。

食事の時間は一番感染のリスクが高いといわれています。事前に消毒作業をしたり、室内の換気をしたり、子どもたちの手洗いの見守り、座る位置を気にしたり、すごく気を使っています。

幼児クラスでは、対面になってしまうこともあるため透明の衝立を利用して、なるべくお喋りをしないように声をかけています。

乳児の0歳、1歳では、マスクをしながらの食事指導の難しさをすごく感じています。口の動きを見せるためにフェイスシールドやマウスシールドを試してみましたが、良さはあるものの飛沫の対策という点では十分ではないので、今は使い方を検討しているところです。園内から感染者が出たときのことを考えて、1日を通してクラス保育をしています。

私たち保育士が不安を見せてしまうと、それが子どもにも伝わり、子どもたちも不安になってしまうので、保育園でできることをみんなで考え、知恵を出し合っているところです。みんなと一緒にやっているという気持ちが安心感にもなっています。仲間の存在の大きさを感じています。

[平間保育園長]

ニュースでは、職場クラスターが増えてきていると言われてますよね。

休憩室のテーブルの仕切りを工夫して作り、個人ごとに台ふきんを使うようにし衛生面に配慮しています。休憩室ではおしゃべりを控え、短時間で昼食をとり、休憩室の利用時間表をつけることも始めました。

子どもの命・職員の命を守らなければならない過酷な保育現場です。

保育の様子は(玄関に掲載している写真の画像)玄関に写真で掲示したり、クラスだよりなどの配布物で保護者の皆様にはお伝えするように努力しています。

先日、夏まつりを保護者はお呼びせずに子ども達だけで行いました。

例年年長児がみんなで担ぐおみこしですが、今年は職員のアイディアで一人ずつ頭にかぶる一人みこしを制作し、園内をソーシャルディスタンスをとってねり歩きました。いつもと違う形でしたが、楽しそうにかついでいました。

これからさきの運動会や発表会についても、アイディアを出し合い、子ども達が楽しめる形のもの企画し、保護者の方とも共有していきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染に終わりが見えず、保育現場での不安はつづける一方ですが、子ども達の笑顔に励まされながら、これからも職員みんなで力を合わせ、知恵を出し合い、子ども達の成長に欠かせない経験を重ねていきたいと思っています。

(動画終了)

御覧になっていただきいかがだったでしょうか。

今回、ロケを受けてくれた平間保育園もそうでありますけれども、市内のすべての保育所で試行錯誤を重ねながら、工夫して保育事業を継続している状況にあります。

とはいえ、VTRを見ていただいたとおり、保育というのは、子どもたちが集団の中で触れ合いながら成長していく場所なので、どうしても3密を徹底するやソーシャルディスタンスの確保は難しいも

のがあります。

そのような中、職員一人一人が自分たちがまず感染しないように、子どもたち同士を感染させないように。さまざまな苦悩の中で保育事業を行っています。そんな中にあっても、自分たちが不安な顔を見せると子どもたちに伝わってしまうということなので、本当に明るく振舞いながら、感染対策を行って、なるべく、明るく、楽しく、子どもたちが過ごせるそんな工夫をみんな試行錯誤しながら行っています。

ぜひ、こういった取組にご理解をいただきたいと思っています。

繰り返し申し上げますが、一人ひとりの感染拡大防止の取組というものが、保育事業、エッセンシャルワーカーの人たちの事業を継続させるなによりの近道になりますので、リスクはゼロにはなりませんけれども、その中で私たちにできることをしっかりやっていく、みんなで支え合いながら、頑張っていきたいと思います。

今日は、保育のいまということでお伝えさせていただきました。

ありがとうございました。